

この章では、前章の各取り組みのうち、
浅草における未来のまちの姿の実現に
特に影響するものを

「戦略的まちづくりプログラム」として束ね、
プログラム単位で進め方や
実現イメージについて示します。

III 戦略的 まちづくり

プログラム

各プログラムの見方 (p.27-34)

① ありがたい姿

そのプログラムを実行することで「どのようなまちに変わっていくか」のポイントを示しています。

②取り組み

そのプログラムの実行にあたり、II章で示した“各アプローチ”に紐づく「実現に向けた取り組み」の中で、戦略的に実践すべき内容を抽出し、示しています。

③進行イメージ

特定の場所及び目的をもって実施する上記の取り組みを「進行イメージ」として再構成しています。実践する内容については、浅草における大切な節目を一つの目標地点として時系列で整理し、短期・中長期それぞれの段階に応じた記載内容となっています。

④未来のまちのイメージ

そのプログラムを実行することで「どのようなまちに変わっていくか」のイメージを示しています。なお、イメージの内容は決定したのではなく、今後のまちづくりにつながるヒントとしての一例を示したものです。

⑤ 説明文

未来のまちのイメージで広がっているシーンを示しながら、設定しているアングルの意図を説明するものです。

⑥ 概念图

プログラムを実行することで、現状からどのように「ありたい姿」へと変わっていくかについて、その概念図と説明文を示しています。

[illegible]

戦略的まちづくり プログラムの設定箇所

「戦略的まちづくりプログラム」は、空間として大きく再編される場所、現状の空間を維持しつつ魅力を増やしていく場所の中でも、まち全体に好影響が広がり、波及効果が最大化されていくことを狙いとして、場所と取り組みを戦略的に抽出し、整理しています。

1 人中心の空間の創出プログラム (浅草全体)

主に該当するアプローチ:

- 01 暮らしと観光を共存させる
- 02 人とまちを安全に
- 04 居心地の良い空間をつくる
- 07 表舞台をつくる
- 09 おもてなしの質を上げる

2 新たな回遊拠点の創出プログラム (浅草駅・隅田川周辺)

主に該当するアプローチ:

- 02 人とまちを安全に
- 03 まちの移動をスムーズに
- 04 居心地の良い空間をつくる
- 05 駅とまちをつなぐ
- 06 水辺とまちをむすぶ

3 歴史を紡ぐ軸の創出プログラム (東参道・二天門通り周辺、浅草寺周辺)

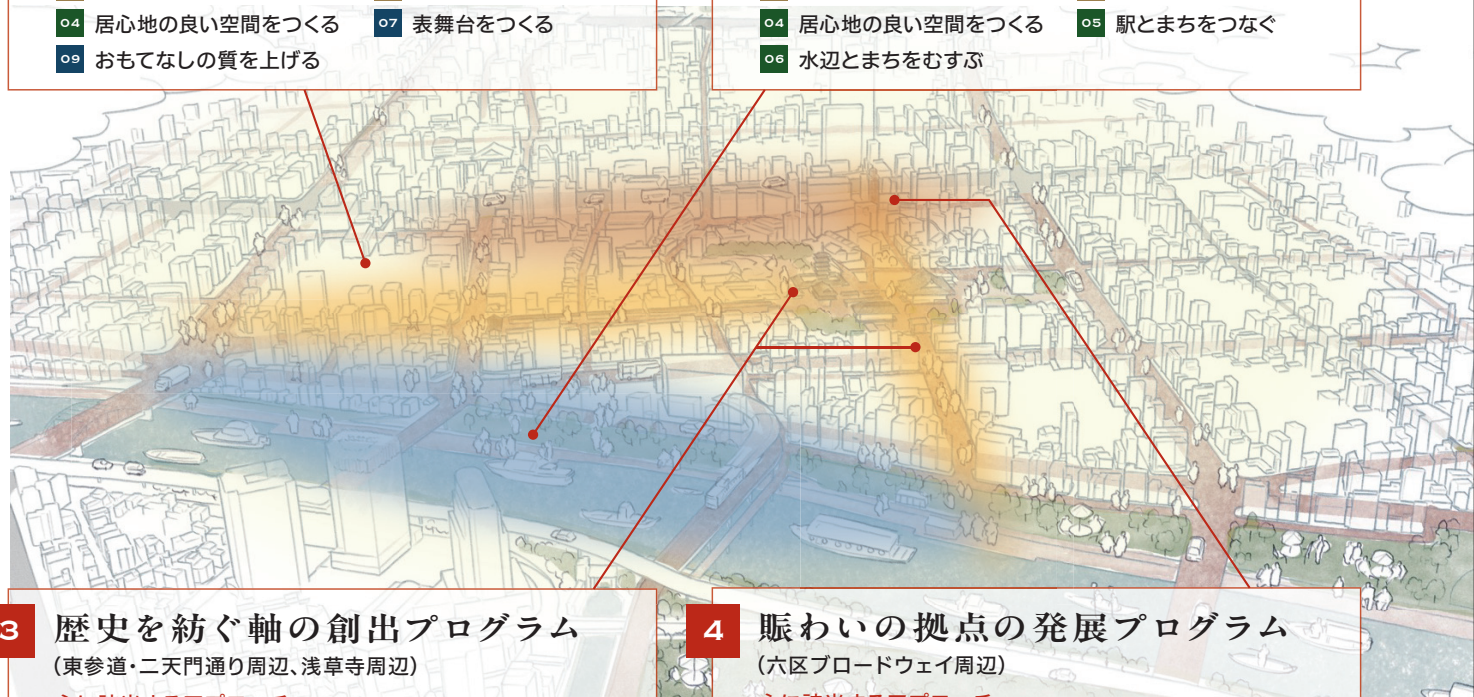
主に該当するアプローチ:

- 01 暮らしと観光を共存させる
- 02 人とまちを安全に
- 04 居心地の良い空間をつくる
- 06 水辺とまちをむすぶ
- 07 表舞台をつくる

4 賑わいの拠点の発展プログラム (六区ブロードウェイ周辺)

主に該当するアプローチ:

- 01 暮らしと観光を共存させる
- 05 駅とまちをつなぐ
- 07 表舞台をつくる
- 08 本物を伝える
- 09 おもてなしの質を上げる



1 人中心の空間の創出プログラム（浅草全体）

ありたい姿

空間の再編・創出を行い、「歩いて楽しい空間」をまちのあちこちに広げます。

- 訪れる人で溢れているまちなかでは、混雑が解消され、快適な訪問・滞在ができる環境を確保します。
- 空間の利活用にまつわるイベントや社会実験が重ねられ、歩いて巡ることの楽しさを感じることができる空間環境を確保します。
- さまざまなシーンで活用できる道路空間づくりを推進します。

取り組み

- 通りの賑わいを維持・向上させる、まちづくりの担い手の育成
- 未来のまちの姿につながる空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- 生活に根付いた祭りやイベントに合わせて変化が可能となるまちの環境整備
- 住む人・商いをする人・訪れる人が調和しながら過ごせる生活空間の確保
- 広がりのある浅草を楽しめる、おすすめの観光ルートの発信
- まちなかのトイレ環境の充実と利用マナーの啓発
- 地区内の既存交通の整理
- 伝統ある文化と活気に溢れた、浅草らしさが感じられる屋外広告物等の景観ルールづくり
- 住む人・商いをする人・訪れる人にとって魅力的な空間・施設の再編
- 平常時や災害時にも多目的に活用できる、駅前や主要な通り沿道におけるオープンスペースの整備
- 避難場所等へ安全かつスムーズに移動ができる通りの整備
- 賑わいと快適性を共存させる、主要な通りや駅前での歩行者空間の拡充
- 地区内外の個性ある資源に訪れたくなる、人々の往来や誘引性を高める設え
- 持続可能な観光の促進に向けた受入環境整備
- 周辺地域とのつながりを強化する、自転車や新しいモビリティ等を活用した交通ネットワークの形成

進行イメージ

浅草寺創建
1400年

東武浅草駅開業・隅田公園開園
震災復興100周年

計画見直し
予定

台東区
100周年

2028
頃

2030
頃

2038
頃

2047
頃

・エリアマネジメント団体等の組成
・歩行者空間の拡充に向けた社会実験や目指すべき方向性の検討
・モデル地区におけるまちなみの維持に必要な建替えルールの検討
・多様なニーズを踏まえた受入環境に向けた検証
・主要な通りや駅前における景観、駐車場、自転車等のルール導入に向けた検討

・エリアマネジメント人材の育成
・社会実験やあり方検討を踏まえた、道路空間や地下空間等の歩行者空間拡充方針の作成
・雷門通りや並木通りなどにおける広場空間の検討
・モデル地区におけるまちなみの維持に必要な建替えルールの導入
・受入環境の段階的な運用
・主要な通りや駅前における景観、駐車場、自転車等のルールの作成

・エリアマネジメントによる持続可能な活動の展開
・まちなみの維持保全・適切な建物更新
・地区内での建替えルールづくりの推進
・道路空間や地下空間等の歩行者空間拡充ネットワークやオープンスペースの実現
・時代のニーズに即した、持続可能な受入環境の運用
・景観、駐車場、自転車ルール等の運用

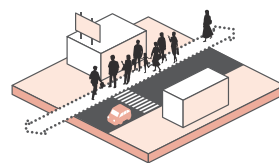
未来のまちのイメージ

訪れる人で溢れ、混雑していたまちなかでは、広々と歩けて滞留もしやすい空間が整備され、快適な時間を過ごせるようになっていきます。



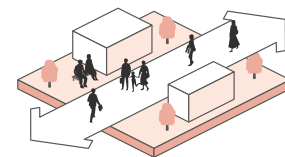
地域の生活やなりわいが広がる場所でも、まちに住む人たちがゆったりとそぞろ歩きができ、憩える空間が生まれ、日常的にまちへ繰り出したい気持ちになります。

概念図



■ 現状

歩行者空間が狭く混雑し、街並みの中で広告が目立つ等、空間として人が中心でなく快適さに欠ける状況です。



■ 未来

混雑する歩行者空間等の改善や浅草独自のルールの導入により、住む人・訪れる人が目的地までの道のりを快適に感じられる、歩いて楽しい空間を創出します。

2 新たな回遊拠点の創出プログラム（浅草駅・隅田川周辺）

ありたい姿

滞留空間の創出・交通結節機能の充実・拡充を行い、これとともに浅草駅や地下施設等を更新した「浅草の新たな回遊拠点」として発展させます。

- 鉄道・バス・水上バスなどの公共交通の利用がしやすく、利便性が高い交通環境を確保します。
- 隅田川周辺では、水辺とまちが一体的につながった空間を確保します。
- 観光や平常時の憩いだけでなく、災害時の避難にも対応できる空間を確保します。

取り組み

- 未来のまちの姿につながる空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- まちづくりプログラムの推進協議会での検討
- 水辺空間の利活用・維持管理に向けた民間主体の河川空間マネジメントの推進
- 水辺に居心地よく滞在できるイベント等との連携・PR促進
- ナイトタイムでの観光を促す滞留空間やコンテンツづくりの整備
- 大規模災害時の人や物資の輸送手段の確保
- 浅草3駅（東武・メトロ・都営）を中心とした、新たな都市基盤・回遊拠点整備の推進
- 鉄道・バス・水上バス・タクシー・新たなモビリティ等の交通結節機能の充実
- 隅田川や川沿い街区のまちづくりと連携したスーパー堤防等の河川整備の推進
- 都市基盤整備に合わせた、観光バスや自転車の駐車場等の都市施設の確保
- 平常時や有事の際の利用のしやすさに配慮した、地下空間の再整備
- 舟運での広域的なつながりの強化
- まちづくりに合わせた東武浅草駅の更新
- 水辺にゆとりと潤いをもたらす、緑化の充実やベンチ、サイン等による水辺空間の質的向上

進行イメージ

浅草寺創建
1400年

東武浅草駅開業・隅田公園開園
震災復興100周年

計画見直し
予定

台東区
100周年

2028
頃

2030
頃

2038
頃

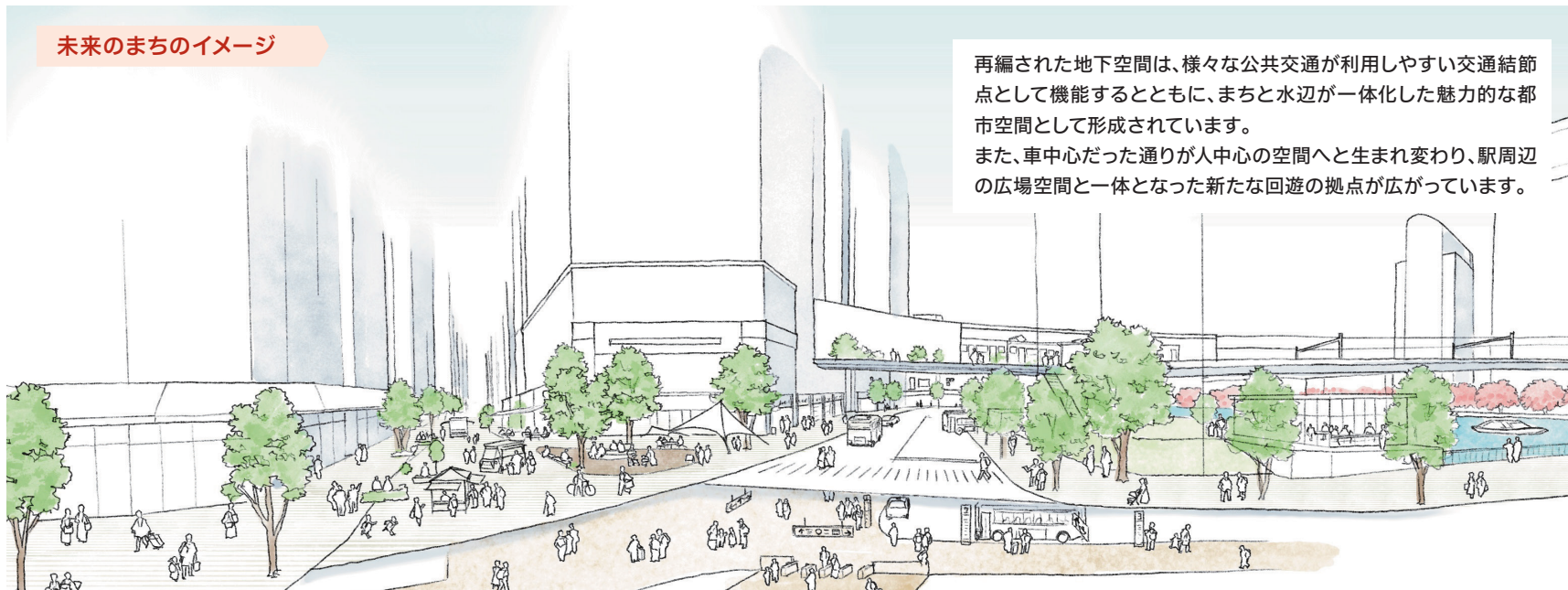
2047
頃

・公共空間利活用に向けた社会実験
・浅草3駅周辺を中心とした都市基盤整備の検討（交通結節拠点機能・駅前広場・道路空間・地下空間・バリアフリー・河川整備・まちと水辺をつなぐ基盤強化 等）
・観光などに資する舟運ネットワークの検討

・社会実験も踏まえた、浅草3駅周辺を中心とした都市基盤整備方針の作成
・水辺空間が目的地となるイベントの充実
・防災船着場の平常時利用拡大

・浅草3駅周辺を中心とした都市基盤整備の実現
・まちづくりに合わせた東武浅草駅の更新
・舟運ネットワークの形成・上下流との舟運の拠点化
・エリアマネジメントによる、水辺を中心とした公共空間の維持管理

未来のまちのイメージ



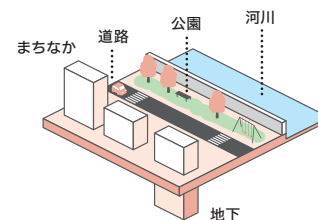
再編された地下空間は、様々な公共交通が利用しやすい交通結节点として機能するとともに、まちと水辺が一体化した魅力的な都市空間として形成されています。

また、車中心だった通りが人中心の空間へと生まれ変わり、駅周辺の広場空間と一体となった新たな回遊の拠点が広がっています。



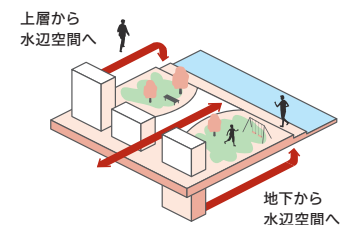
水辺とまちが一体的につながる親水空間が整備され、水上バスの利用促進も図られており、昼も夜も、人々が思い思いに時間を過ごせる心地よい滞留空間となっています。

概念図



■ 現状

堤防や道路等によりまちなかと水辺空間が分断されており、空間としてのつながりに欠ける状況です。



■ 未来

まちづくりに合わせて、水辺に親しめる空間を創出するとともに、複層的にまちと水辺をつなげることで、まちなかと水辺空間のつながりを再生します。

3 歴史を紡ぐ軸の創出プログラム（東参道・二天門通り周辺、浅草寺周辺）

ありたい姿

住む人や訪れる人が快適に回遊できる動線を整備し、「浅草の歴史を紡いできた二大空間（浅草寺・隅田川）を結べる軸」として発展させます。

- 浅草寺と隅田川の往来を促進するような動線を確保します。
- 二天門前や隅田公園近辺では、東西の往来を十分に受け止め、歩行者がゆったりと滞留できる空間を確保します。
- 浅草寺周辺や浅草寺と隅田川をつなぐ参道において、建物ファサードや屋外広告物等の統一感ある景観づくりを推進します。

取り組み

- 1400年を超える歴史文化を伝える、新たな滞留拠点の整備
- 幅広い世代に向けた、浅草の歴史・まち・文化への理解を深めるための情報発信とイベントの実施
- 未来のまちの姿につながる空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- 水辺に居心地よく滞在できるイベント等との連携・PR促進
- 伝統ある文化と活気に溢れた、浅草らしさが感じられる屋外広告物等の景観ルールづくり
- 通りや水辺空間の賑わいや維持管理に取り組むエリアマネジメントの活性化
- 地区内外の個性ある資源に訪れたいくなる、人々の往来や誘引性を高める設え
- 住む人・商いをする人・訪れる人にとって魅力的な空間・施設の再編
- 都市基盤整備に合わせた、観光バスや自転車の駐車場等の都市施設の確保
- 平常時や災害時にも多目的に利活用できる、駅前や主要な通り沿道におけるオープンスペースの整備
- 避難場所等へ安全かつスムーズに移動ができる通りの整備

進行イメージ

浅草寺創建
1400年

東武浅草駅開業・隅田公園開園
震災復興100周年

計画見直し
予定

台東区
100周年

2028
頃

2030
頃

2038
頃

2047
頃

・浅草寺を中心とした滞留拠点の再整備の検討
・公共空間利活用に向けた社会実験
・浅草寺周辺に関する景観調査
・東参道・二天門通り周辺の公共空間の再編や活用に向けた検討

・浅草寺を中心とした滞留拠点の再整備
・公共空間における魅力的な都市機能の誘致や導入の検討
・浅草寺周辺における屋外広告物等の景観ルールの作成
・歩行者空間の拡充を踏まえた避難動線や空間等の目指すべき方向性の検討

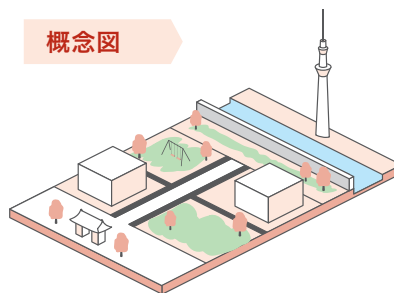
・まちなみの維持保全
・日常的な交流イベント、文化・産業コンテンツの発信
・魅力的な都市機能の誘致・導入
・景観ルールの運用
・東参道・二天門通り周辺の公共空間の再編や活用
・観光バス駐車場や乗降場の整備方針の作成、整備の実現
・災害時の避難に資する空間の確保

未来のまちのイメージ



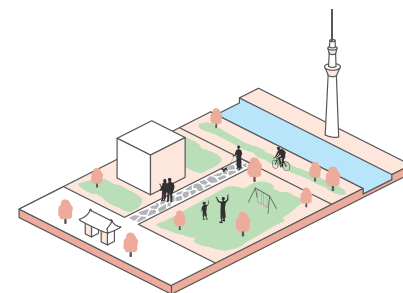
公共施設や公園と通りが個々に分かれていた状況から、各空間が連続的につながって、住む人・訪れる人・商いをする人が集まり行き交っており、浅草寺から隅田川まで往来したくなる場所として空間が再編されています。

概念図



■ 現状

浅草寺から隅田川へとつながる空間は公共施設や公園が個別に配置されており、人の往来が生まれづらい状況です。



■ 未来

住む人・訪れる人・商いをする人が集える一体的な空間として再編され、浅草寺や隅田川等、各目的地への人の往来や交流を促進します。

4 賑わいの拠点の発展プログラム（六区ブロードウェイ周辺）

ありたい姿

地域による活動が活発に行われている、「賑わいのある西の回遊拠点」として発展させます。

- 興行や大衆芸能の中心地として、浅草のにぎわいを支えてきた数々の取り組みを展開します。
- 主要な通りでは、快適に通行でき、人々の往来を十分に受け止め、歩行者がゆったりと滞留できる空間を確保します。
- 浅草の西側を代表する観光拠点が生まれ、東側を訪れた人の集客を促進します。

取り組み

- 幅広い世代に向けた、浅草の歴史・まち・文化への理解を深めるための情報発信とイベントの実施
- 広がりのある浅草を楽しめる、おすすめの観光ルートの発信
- 通りの賑わいを維持・向上させる、まちづくりの担い手の育成
- 未来のまちの姿につながる空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- 商店街等における人と人がつながる機会の創出
- 興行街の歴史を活かした地区のシンボルとなる滞留拠点の整備事業の推進
- 通りや水辺空間の賑わいや維持管理に取り組むエリアマネジメントの活性化
- ストーリー性を感じることができる商店街ファサードの整備
- 浅草駅(TX)や田原町駅と六区ブロードウェイとのつながりを意識した回遊の促進
- 「芸の聖地」浅草の大衆芸能の文化を体験し、楽しめる場の充実
- ナイトタイムでの観光を促す滞留空間やコンテンツづくりの整備

進行イメージ

浅草寺創建
1400年

東武浅草駅開業・隅田公園開園
震災復興100周年

計画見直し
予定

台東区
100周年

2028
頃

2030
頃

2038
頃

2047
頃

・民間主導による拠点施設(ランドマーク施設等)の整備・誘致に向けた検討
・浅草駅(TX)や田原町駅と六区ブロードウェイとのつながりを意識した回遊促進方針の検討
・エリアマネジメントによる継続的な維持管理・イベント等の実施
・公共空間利活用に向けた社会実験
・六区ブロードウェイ等のほこみち制度の活用
・浅草六区地区計画やデザインガイドラインの検証
・歩行者専用時間帯の拡大

・民間主導の拠点整備等の方針や計画の作成
・浅草駅(TX)や田原町駅と六区ブロードウェイとのつながりを意識した回遊促進策の推進
・エリアマネジメント体制の拡充
・社会実験を踏まえた歩行者空間等のあり方検討
・地区計画等の運用の見直し

・民間主導による拠点施設の整備の実現
・エリアマネジメントによる持続可能な活動の展開
・地区計画に沿ったまちなみの更新
・浅草駅(TX)や田原町駅と六区ブロードウェイの回遊促進の展開
・公共空間でのイベントを背景とした、興行場などの施設整備の展開

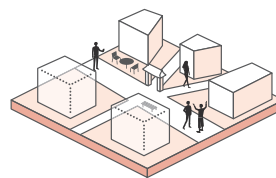
未来のまちのイメージ

屋外で演芸が行われていたり、活気を感じながら滞留できる場所が生まれたりするなど、六区ブロードウェイを中心に浅草ならではの賑わいが創出されています。



それぞれ個性を有する商店街では、通りごとに建物のデザインやファサードが整い、気軽に滞留できる場所が設けられるなど、まちや商いの賑わいが一層感じやすい空間が広がっています。

概念図



■ 現状

興行や大衆芸能の中心地として、六区ブロードウェイを主軸に賑わいが生まれている状況です。



■ 未来

公共空間の積極的な利活用をさらに促進することで、六区ブロードウェイをさらに発展させ、浅草ならではの興行や大衆芸能による賑わいや文化を、周辺の通りや空間にも広げていきます。